

## 23. 鳥取県のでんかん地域診療連携事業活動の概要 —2024 年度—

### 鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経小児科学分野 てんかん診療連携協議会委員長 岡西 徹

#### まとめ

2024 年度のでんかん地域診療連携事業として、てんかん治療医療連携協議会を県単位と学内にて開催した。地域の医療者向けのでんかん講演を鳥取大学内にて行った。

啓発活動としては小・中・特別支援学校教員、福祉施設職員を対象に地域内 14 校、2 施設にオンラインでの総合講義を行った。市民向けの公開フォーラムを米子コンベンションセンターにて行った。

今後、本事業活動の啓発を様々な機関や施設に向けて行う必要があると考える。

#### 1. 概要

鳥取県の推計人口は令和 5 年 12 月 1 日現在 53 万 6556 人で、男性 25 万 6861 人、女性 27 万 9695 人である。外国人が 10357 人、1 年の出生数が 3462 人、死亡者数が 8381 人である。1 年で 6297 人の減少、増減率-1.16%と減少傾向にある。

日本てんかん学会専門医は 7 名（東部 1 名、中部 1 名、西部 5 名；小児科 5 名、脳外科 1 名、精神科 1 名）である。2015 年にてんかん地域診療連携体制整備事業のもとで鳥取大学医学部附属病院がてんかん診療支援拠点病院となり 9 年目を迎えた。2023 年度における本事業の活動の概要について報告する。

#### 2. てんかん地域診療連携事業

##### 1) 第 1 回てんかん治療医療連携協議会

2024 年度第 1 回治療医療連携協議会を 2024 年 8 月 1 日にオンライン会議にて開催し、事業計画策定の概要、相談体制、研修会、普及啓発活動、予算案について協議し、また、令和 5 年度の活動実績を報告した。

##### (1) 拠点機関における事業計画の策定の概要

委員の変更。・地区別：東部地区：3 名、中部地区：1 名、西部地区：7 名・職種別（重複あり）：医師：6 名、行政：2 名、精神保健福祉センター：1 名、保健所：1 名、看護職その他：3 名、コーディネーター：2 名・令和 6 年度事業計画書及び年間スケジュール

##### (2) 相談体制・診療拠点機関のてんかん診療支援コーディネーター

2 名体制で実施（月・木曜日：13 時～16 時；火・金曜日：10 時～13 時）。電話相談が主体。必要があれば面談も行う。・相談体制の周知：関係機関（医療・行政・教育・福祉機関）への事業ポスター、リーフレットを送付し掲示を依頼。ホームページを活用し事業活動情報を公開。

##### (3) 研修会

令和 6 年度は、東部・中部・西部地区毎に対面による研修会開催を計画。

##### (4) 市民への普及啓発活動

令和 6 年度は、市民公開講座 1 回を計画

##### (5) 予算案

令和 6 年度の予算案について承認。

##### (6) その他

令和 2 年度に作成した「緊急カード」を継続して作成配布。

##### 2) 第 2 回てんかん治療医療連携協議会

第 2 回治療医療連携協議会を 2024 年 3 月にオンラインにて開催し、今年度の活動を振り返るとともに、次年度に向けた活動計画案を提示する予定である。

##### 3) 支援拠点病院の鳥取大学医学部附属病院における診療科別てんかん患者数

てんかん診療支援拠点病院である鳥取大学医学部附属病院での 2024 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までのてんかん患者数（保険診療病名から）を調査した。なお、複数回受診でも 1 回としてカウントした。保険診療病名であるため、特に精神科の患者数は多めに出ている可能性がある。脳神経内科、脳神経小児科、精神科、脳神経外科、精神科が主にてんかん診療を行っていると推察できる。

診療科ごと件数：遺伝子診療科 1、感染症内科 1、眼科 1、救急科 27、形成外科 4、呼吸器・膠原病内科 31、呼吸器外科 7、血液内科 21、耳鼻咽喉科頭頸部外科 10、歯科口腔外科 3、腫瘍内科 5、循環器内 21、小児科 31、

小児外科 3、消化器外科 9、消化器内科 14、女性診療科 10、心臓血管外科 11、腎センター・腎臓内科 5、新生児医療センター2、整形外科 7、精神科 241、内分泌代謝内科 3、乳腺・内分泌外科 6、脳神経外科 254、脳神経小児科 430、脳神経内科 517、泌尿器科 10、皮膚科 3、放射線科 1、麻酔・ペインクリニック外科 14

#### 4) てんかん地域医療連携研修会

【中部地区】2024年10月10日 講師：植田俊幸（鳥取県立厚生病院精神科医長） 研修会名：「てんかんの基礎と脳波の読み方」 会場：鳥取県立厚生病院、対象：医療従事者、参加人数：15名

【東部地区】2024年2月予定 講師：前垣義弘（鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経小児科学分野准教授）

#### 5) 一般市民対象の研修会

(1) 鳥取県小・中・特別支援学校教職員と福祉施設職員対象にオンラインセミナー 講師：岡西徹（鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経小児科学分野准教授） 研修会名：「てんかんってどんな病気？」14校、2施設参加

#### 6) 啓発活動

##### (1) 市民公開講座

2024/1/7 にあいサポートとっとりフォーラム 24（米子コンベンションセンター）にて、荒井勇人医師（鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経小児科学分野）により、演題名「新しい視点で見る研究報告とドイツペーテルのレポート」の講演を行った。てんかんの福祉に自治体全体で大きく取り組むドイツペーテルの状況を説明した。

2024/3/9 に米子市市民公開講座として米子コンベンションセンターにて岡西徹医師が「てんかんの外科治療」について講演した。

2025/2/16 にも市民公開講座および、面談形式の相談事業を予定している。

##### (2) パープルデーのイベント

2024/3/26 に西部地区の湊山公園の桜の木を紫色にライトアップした。

2025/3/24 から1週間、東部地区、中部地区、西部地区の公共施設や病院でライトアップを予定している。

#### 7) 相談事業

てんかん診療支援コーディネーターは、てんかん診療支援拠点病院の鳥取大学医学部附属病院内に相談室を設置している。2024年度は、2名体制で事務を兼任しながら専任で実施している。

ホームページの内容が分かりにくいと思われた部分を改善した。

2名のコーディネーターともに看護師資格があり、非常勤（パートタイム）の勤務形態で、月・木曜日の13時～16時、火・金日の10時～13時に勤務し、主に電話による相談業務を行っている。希望があれば面談も行っている。

相談事業のほか、HPの活用や更新、ポスター、リーフレットの配布し、相談窓口情報の提供など、本事業の事務処理も行っている。国立精神・神経医療研究センターのてんかん全国支援センター主催のてんかん支援コーディネーター研修会に、コーディネーターが受講し、相談業務のレベルアップを行った。

##### (1) 相談件数

2024年1月～2024年12月末時点での相談件数は18件であった。また、相談対象者は、患者の家族からの相談が最も多かった。同じ相談者から複数回の相談もあった。

##### (2) 診療ネットワーク

鳥取大学医学部附属病院への紹介・受診7件

他の医療機関への紹介：3件

行政・福祉機関への紹介：2件

##### (3) 相談内容

1. 運転免許センター、福祉施設、幼稚園より、本事業のリーフレット・緊急カードの追加希望があった。
2. 県外でのてんかん治療中の患者家族より、今後の生活が心配、どうしたらよいかとの相談があった。
3. 県内の病院の地域連携室職員より、てんかん患者の鳥取大学医学部附属病院への紹介について問い合わせがあった。
4. 家族がてんかん治療中であるが、発作が増加しているため専門医の紹介や長時間ビデオ脳波モニタリング検査について知りたい。
5. 家族がてんかん治療中であるが、収まっていた発作がおこるようになったので専門医の紹介をして欲しい。
6. クリニック通院中であるが、服薬せずに発作がおこっていない。主治医より鳥取大学医学部附属病院の受診を提案したが、てんかん診療について聞きたい。

7. 鳥取県内の病院でウェスト症候群の治療中であるが、ホルモン療法の適応や予後、子供へのかかわり方等について聞きたい。鳥取大学医学部附属病院の受診は可能であるか。
8. 3～4年前から年に1回程度の発作を起こしている。その都度違うクリニックや病院を受診。様子観察でおわっている。現在はかかりつけのクリニックでてんかんの薬を内服しており1年ぶりに発作をおこした。詳しい検査をうけたいと思っている。どうしたらよいか。
9. 家族がてんかん治療中であるが、土曜日にも受診できるクリニックをさがしている。
10. 鳥取県家庭支援課職員より本事業の相談システムについて、常設かどうか等の問い合わせがあった。
11. 家族が車の運転中に意識消失し事故をおこした。鳥取大学医学部附属病院で詳しい検査をしてほしい。
12. 子どもが成人し、てんかん治療が認知症専門医に移行してから発作が増加した。専門医に受診したい。
13. 鳥取大学医学部附属病院に通院中の患者について、服薬、車の運転、生活支援などについて該当外来看護師から問い合わせがあり、患者と面談した。
14. これまで受診していた病院からの紹介先では、検査をしてもらえない状況であるためセカンドオピニオンを検討している。専門医の意見を聞きたい。

#### (4) 相談後の対応

- 1 への対応：それぞれにリーフレットと緊急カードを郵送した。
- 2 への対応：支援制度について説明し、居住地域の役所の福祉課やてんかん協会支部の連絡先を情報提供した。
- 3 への対応：脳神経小児科、脳神経内科、脳神経外科、精神科のうち必要な診療科への外来担当医あての紹介で予約がとれることを伝えた。
- 4 への対応：希望があれば、鳥取大学医学部附属病院附属病院へ受診できることを伝えた。長時間ビデオ脳波モニタリング検査についての詳しい説明も可能であることを伝えた。
- 5 への対応：希望があれば、鳥取大学医学部附属病院附属病院へ受診できることを伝え、紹介の手続きについて説明した。
- 6 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院へ受診は可能で、受診結果で、必要な検査をしていくことを説明した。現在の主治医に紹介状を依頼することをすすめた。
- 7 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院脳神経小児科に紹介で受診の方向になった。
- 8 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院または居住地域の博愛病院受診を提案した。
- 9 への対応：鳥取県内でてんかん診療を行っているクリニックを伝えた。
- 10 への対応：常設ではなく、月、火、木、金の受付時間内に電話相談を、また、電話で予約後に面談を行っている。面談室と時間の確保ができれば当日の面談も可能であることを伝えた。
- 11 への対応：希望があれば、鳥取大学医学部附属病院附属病院へ受診できることを伝え、紹介の手続きについて説明した。
- 12 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院の専門医が出張で診察を行っている病院での受診が可能であることを伝えた。
- 13 への対応：コーディネーターが面談を行い、患者が困っていることや思いを聞き、必要と思われる支援制度についての説明と居住地域の福祉課への相談を提案した。
- 14 への対応：鳥取大学医学部附属病院附属病院へのセカンドオピニオンを提案した。

#### (5) 総括

- \* 昨年度、小・中・特別支援学校の職員へ行ったオンライン講義を、対象を福祉施設職員へも広げ行う事が出来た。今年度も多数の学校と福祉施設の参加があり、学校教員の関心の高さがうかがえた。今後もてんかん地域連携体制整備事業の活動を地域に広げて活動をしていきたい。
- \* 今年度も、てんかん治療医療連携研修会を対面により、県内3カ所で実施し、また、現地開催による市民への啓発活動や小学校の教職員対象の研修会も実施した。
- \* 相談件数は 患者本人 4 件 家族、知人 9 件 地域の方 0 件 企業 0 件 医療従事者 2 件 行政・福祉・教育関係者 4 件 であった。
- \* 本事業のリーフレットと緊急カードの追加請求があった。
- \* コーディネーターへの相談は、前年より5件増加した。
- \* 県内のてんかん専門医は7名登録されているが、地域や専門分野が偏在している。今後も、県内の各所でてんかんにおける研修会などを開催し、てんかん診療を担う医療機関との連携体制を強化する必要がある。
- \* HP や広報活動により引き続き相談事業の認知を図り、啓発活動を継続していく必要性を感じている。
- \* てんかん診療支援拠点病院にてんかんセンターとしての機能がないため、診療支援拠点病院や県内の医療機関、保健所、医師会、教育機関、行政機関、企業等に向けて広報活動や本事業のPR活動を積極的に行う必要があると考える。